

# 政策評価シート【総括票】

施策の柱 **4-3 ひと・モノ・情報がつながる基盤をつくる**

基本方針 **ひと・モノ・情報が活発につながる基盤づくりとして、総合的な交通ネットワークの形成や人にやさしい移動環境の創出、ICTを活かした利便性の向上を進めます。**

担当局(区) 建設局 都市局 総務局 保健福祉局

評価区分 **B 政策の目的達成に向けかなり成果が現われている**

【評価の理由・説明】  
 公共交通ネットワーク及び道路ネットワークの形成については、「公共交通機関の利用者数」、「市内の道路は、車でスムーズに移動できる」の指標で中間目標値を上回った。これは、鉄道やバスなどを使いやすく安全に安心して利用できるような環境整備を実施したことや、市内主要道路の整備完了等により利用者の利便性が向上したこと等が要因と考えられる。しかし、「市内の公共交通は利用しやすい」で指標の値が下がったことは、千葉駅建替工事や、バス運行に関する取組みが十分進んでいないこと、また、利便性について比較的若い年齢層には評価が得られているが、バスロケーションシステム等、多くの人が利用する環境整備の遅れから全体としての評価が得られなかったことが要因と考えられる。  
 また、人にやさしい移動環境の創出については、「歩道の改良」や「歩道の整備」など遅延している事業があるものの、駅構内のバリアフリー化を着実に推進したことや、障害者に対する理解促進の取組みを行ったこと等により、概ね目標を達成できている。  
 ICTを活かした利便性の向上については、「庁内情報システム最適化によるコスト削減」が中間目標値を上回ったほか、公共施設予約システムの導入や戸籍事務の電子化等の取組みを計画どおりに進めたことが「ICTの活用が進み、市のサービスは利用しやすい」との実感の向上に寄与したものと考える。一方で、「電子申請サービスの利用率」は、利用可能な手続数を拡大したため、全体として利用率は低下した。

【今後の取組みの方向性】  
 バス運行に関する取組みについては、第2次実施計画において、引き続き、利用者数が減少している郊外部での地域参画型コミュニティバス等の導入について地域住民への説明会等の実施や、利便性を向上するためのバスロケーションシステムの導入を促進し、またバリアフリー化を推進するなど、高齢者にも利用しやすい公共交通の利便性向上に取り組んでいく。  
 道路ネットワークの形成については、用地取得の遅れなどにより未達成となった事業への理解、協力が得られるよう交渉を進めるとともに、安定的な財源の確保に取り組んでいく。また、国や千葉県が主体となって行っている事業については、早期に事業効果が発現されるよう、支援を行っていく。  
 高齢者や障害者など、すべての人の移動を円滑化するためには欠くことのない重要な事業であるバリアフリー化について、ハード面では、鉄道駅のエレベーター施設の設置や、千葉市バリアフリー基本構想で定められた生活関連経路における電線共同溝などについて、引き続き着実に整備を実施していくとともに、遅延している事業について、引き続き歩行者等の安全確保を図るために事業協力が得られるよう取り組んでいく。一方ソフト面では、障害者福祉大会の一般市民の観覧応募者数や、「心の輪を広げる体験作文」の応募者数をさらに増やすことによって、障害者に対する理解のある方を増やしていくことが課題であり、「ふれあいコンサート」など新たな取組みを実施するなど、市民の「心のバリアフリー」の更なる促進に努めていく。  
 さらに、ICTを最大限に活用し市民の利便性の向上を図るため、全体最適の視点から個々の業務を抜本的に見直す業務プロセス改革を推進して滞在時間が最少の区役所、来庁せずとも手続きが完了する区役所を目指す窓口改革や、証明書のコンビニ交付などを進めるとともに、社会保障・税番号制度などの仕組みを活用した新たなサービスの提供に向けた取組みを進めていく。

評価区分の基準(指標の達成状況の平均点数)  
 A:4.5点以上、B:3.0点以上4.5点未満、C:1.5点以上3.0点未満、D:0点以上1.5点未満、E:0点未満

## 生活実感・行動指標

指標No.	指標名	H23末 現状値	H26末 中間目標値	H29末 中間目標値	H33末 目標値	H26末 現状値	H29末 現状値	H33末 現状値	達成状況	点数
137	市内の公共交通は利用しやすい	49.8	51.5	53.3	55.0	48.9			×	-1
139	市内の道路は、車でスムーズに移動できる	40.7	46.0	46.5	50.0	47.0			◎	5
141	公共の場でのバリアフリー化が進んでいる	34.5	36.3	38.2	40.0	33.6			×	-1
142	移動に困っている人を見かけたときなど、ちょっとした心づかいができる	57.2	58.0	59.0	60.0	60.2			◎	5
144	ICTの活用が進み、市のサービスは利用しやすい	24.4	28.0	35.0	50.0	27.0			○	3

## 客観指標

指標No.	指標名(単位)	H23末 現状値	H26末 中間目標値	H29末 中間目標値	H33末 目標値	H26末 現状値	H29末 現状値	H33末 現状値	達成状況	点数
138	公共交通機関の利用者数(千人)	704	現状維持 (704)	現状維持 (704)	現状維持 (704)	743			◎	5
140	幹線道路における混雑区間の延長(km)	67.7	-	59	55	67.7				
143	鉄道駅のバリアフリー化率(%)	92	95.0	97.0	100	95.0			◎	5
111	駅や公共施設等を結ぶ道路等の無電柱化率(%)	51.6	54.0	56.0	58.5	54.2			◎	5
145	庁内情報システム最適化によるコスト削減(百万円)	-	57	249	1055	138			◎	5
146	電子申請サービスの利用率(%)	20	22.0	25.0	29.0	19.3			×	-1

平均点 **3.0**

## 施策別・事業の進捗状況

施策	進捗状況		主な事業の進捗状況(事業を取り巻く社会経済情勢、成果・課題など)
	達成	未達成	
4-3-1	3	7	「バス活性化システムの整備」等バス運行に関する取組みが目標値には至らなかったものの、「モノレールの更新(車両更新)」については目標を達成した。
4-3-2	30	24	主要地方道浜野四街道長沼線(若葉区更科町)や都市計画道路美浜長作町線等の市内主要道路の整備や、菅田駅周辺のまちづくり事業の完了により、利用者の利便性が向上した。
4-3-3	9	6	超高齢化を迎え、より人にやさしい移動環境の創出を図ることが求められており、歩道の改良等の事業が遅延したが、鉄道駅等のバリアフリー化や電線共同溝、踏切道の安全対策について着実に事業を実施した。
4-3-4	7	0	ICTを活用した利便性の高い行政サービスの提供が市民・行政双方に求められており、公共施設予約システムの導入、戸籍事務の電子化、情報システムの最適化等の取組を計画どおり進めることができた。